

令和6年度(7年産)ビール大麦等生育概況⑤

農業総合研究センター研究開発部麦類研究室

調査日：令和7(2025)年4月4日

(調査基準日4月5日)

○ニューサチホゴールデン(11月8日播種)の出穂期は、今後気温が平年並に推移した場合、平年より2日早いと予測される。

○赤かび病防除は適期を逃さずに実施する。

○収穫に向けた湿害対策として引き続きほ場の排水対策を行う。

1. 有効積算気温によるニューサチホゴールデンの出穂期予測

本年産の農研センター本場(宇都宮市)におけるニューサチホゴールデンの出穂期(4月4日現在、令和6年11月8日播種)は、今後気温が平年並に推移した場合は平年より2日早い4月16日(平年値4月18日)と予測される。

場所	茎立期	出穂期予測				出穂期
	本年	平年+2℃	平年+1℃	平年並	平年-1℃	平年値
農研センター	3/12	4/13	4/15	4/16	4/17	4/18

平年+1℃の場合は4月15日(平年-3日)、平年+2℃の場合は4月13日(平年-5日)、平年-1℃の場合は4月17日(平年-1日)である。

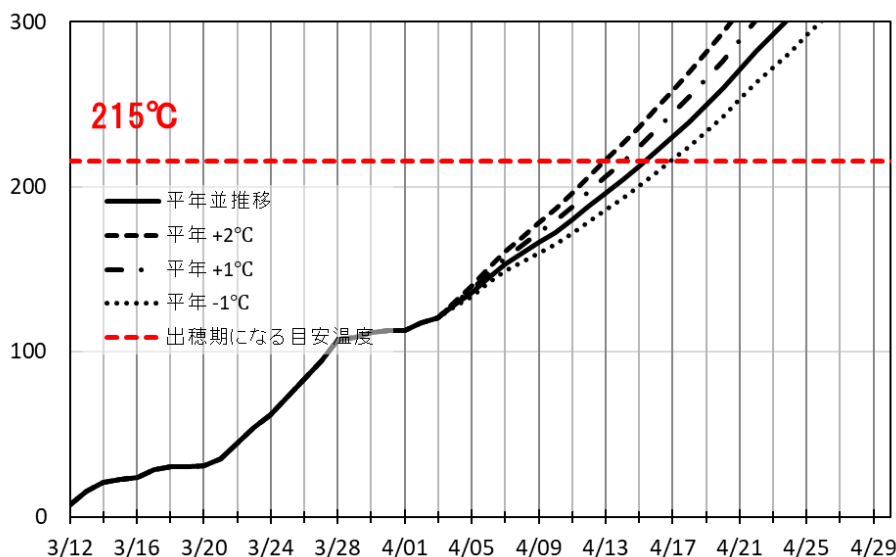


図 ニューサチホゴールデンの出穂期予測(農研センター本場)

※有効積算温度=Σ(日平均気温-有効下限温度(4.6℃))

※日平均気温は気象庁宇都宮アメダスの観測データを使用した。

※有効積算温度及び有効下限温度は、ニューサチホゴールデンにおける茎立期から出穂期までの積算温度で算出した。

2. 前回調査から今回調査までの気象概況（3月20日～4月4日）

宇都宮市の平均気温は平年+1.3℃の10.5℃であった。降水量は56mm(平年比100.4%)と平年並、日照時間は平年より少なかった（平年比85.4%）。

3. 4月4日の生育概況 農研センター本場(宇都宮市)

農研センター本場のニューサチホゴールデン(11月8日播種区)の幼稈長は170.9mm(平年比63%)、幼穂長41.1mm（平年比89%）であった。

4. 今後の気象動向（気象庁季節予報令和7年4月3日発表より引用）

- 天候：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・平均気温：高い確率が50%
- ・降水量：平年並の確率が40%
- ・日照時間：平年並の確率が40%

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 04/05～05/04	10 40 50
		1週目 04/05～04/11	10 30 60
		2週目 04/12～04/18	20 30 50
		3～4週目 04/19～05/02	20 40 40
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 04/05～05/04	30 40 30
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 04/05～05/04	30 40 30

低い(少ない)平年並高い(多い)

5. 今後の管理

1) 赤かび病防除

二条大麦の赤かび病の防除適期は、**穂揃期 7～10 日後**である。**本病防除適期を逃さず、殺菌剤を必ず散布することが重要である**。本病多発のおそれがある場合は、1 回目薬剤散布の 7～10 日後を目安に 2 回目の散布を行う。

六条大麦は、**開花始と開花 10 日後**に 2 回薬剤散布を行う。

小麦は、**開花始と開花 20 日後**に 2 回薬剤散布を行う。

六条大麦、小麦とも、本病多発のおそれがある場合は、3 回目の薬剤散布を行う。

麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦	穂揃期 7～10 日後(葯殻抽出期)※1	1 回目の 7～10 日後に 2 回散布
六条大麦	開花始 ※2 と開花 10 日後の 2 回散布	3 回目散布
小麦	開花始 ※2 と開花 20 日後の 2 回散布	3 回目散布

※1 **葯殻抽出期**：穎の先端から葯殻(受粉を終えた葯の殻)が押し出されてくる時期

※2 **開花始**：抽出した葯を初めて認めた日

また、二条大麦の赤かび病の発生を助長する要因として、**不稔の発生**がある。不稔発生の気象条件として、

- ① 出穂前 8～10 日ごろの低温 (−1.0～−1.5℃の低温に 3～4 時間遭遇)
 - ② 出穂期前後の降霜
 - ③ 出穂期前後に 25℃以上の高温に遭遇

などがある。今後の気象状況をよく把握し、必要であれば追加防除を行う。

なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる RAC コードの薬剤をローテーション散布すること。農薬は使用前に必ずラベルをよく読み、使用時期・使用方法を確認して正しく使用すること。

ご不明点は農業振興事務所 経営普及部又は農業総合研究センター 環境技術指導部までご連絡ください。

県 HP <https://www.pref.tochigi.lg.jp/kensei/kennososhiki/g/index.html>

2) 排水対策

登熟期の湿害は粒の充実不足を引き起こし収量の低下を招くため、**排水溝や明きよの再確認**を行う。

表 1. 調査結果

農研センター本場（宇都宮市）における生育概況

品種名	年度	草丈	茎数	葉齢	葉色	正規化 植生指数	幼穂長	幼穂長	幼穂 分化程度
		cm	本/㎡		SPAD	NDVI	mm	mm	
ニューサチホ ゴールデン (11/8 播種区)	本年	-	-	-	-	-	170.9	41.1	11.0
	平年	-	-	-	-	-	270.2	46.0	11.0
	平年比・差	-	-	-	-	-	63%	89%	0.0
	(参考) 前年	-	-	-	-	-	123.3	25.7	11.0
ニューサチホ ゴールデン (11/19 播種区)	本年	39.9	1740.3	9.6	36.2	0.72	112.4	29.5	11.0
	平年	-	-	-	-	-	-	-	-
	平年比・差	-	-	-	-	-	-	-	-
	(参考) 前年	-	-	-	-	-	-	-	-
シュンライ	本年	-	-	-	-	-	94.5	14.3	11.0
	平年	-	-	-	-	-	201.0	27.9	11.0
	平年比・差	-	-	-	-	-	47%	51%	0.0
	(参考) 前年	-	-	-	-	-	84.4	18.4	11.0
さとのそら	本年	-	-	-	-	-	91.8	11.6	11.0
	平年	-	-	-	-	-	202.7	31.0	11.0
	平年比・差	-	-	-	-	-	45%	37%	0.0
	(参考) 前年	-	-	-	-	-	99.0	10.5	11.0

注) NDVI: 植物体の近赤外域の反射率と赤の反射率から求められ、植生の量や生育の良否を指数化したもの。

注) 小数点以下第 2 位を四捨五入してあり、実際の差と一致しない場合がある。

※平年値: ニューサチホゴールデン(11/8 播種区)は平成 25 年～令和 4 年度(10 年間)の平均値。その内 NDVI は平成 29 年～令和 4 年度(6 年間)の平均値、ニューサチホゴールデン(11/19 播種区)は初年度のため平年値はなし。シュンライ、さとのそらは令和元年～令和 4 年度(4 年間)の平均値。

※令和 5 年度は参考値(播種が平年より 10 日遅れたため、平年値から除く)。

【耕種概要等】

供試品種：ニューサチホゴールデン、シュンライ、さとのそら

調査方法：ほ場調査(草丈、茎数、葉齢、葉色、NDVI)

抜取調査(幼穂長、幼穂長、幼穂分化程度)

播種期：令和 6 年 11 月 8 日（前年 11 月 16 日・平年 11 月 6 日）、11 月 19 日（ニューサチホゴールデンのみ）

播種量等：条間 22cm のドリル播、播種量 226 粒/㎡設定（10a あたり約 9.5kg）

土壌分類：表層多腐植質黒ボク土

施肥：	施肥量(kg/10a)			備考
	N	P	K	
基肥	5.0	6.4	5.0	BB ビール麦エース 14-18-14 35.7kg/10a

※前作は水稻青刈りすき込み、堆肥 1.0t/10a を施用

※重焼燐 2 号 280 kg/10a、塩化加里 20 kg/10a を施用

※3 月 20 日現在、追肥は行っていない

踏圧 11月8日播種区：計6回（12月6日、12月25日、1月10日、
1月27日、2月21日、3月10日）
11月19日播種区：計4回（1月10日、1月27日、2月21日、
3月10日）

【気象概況】

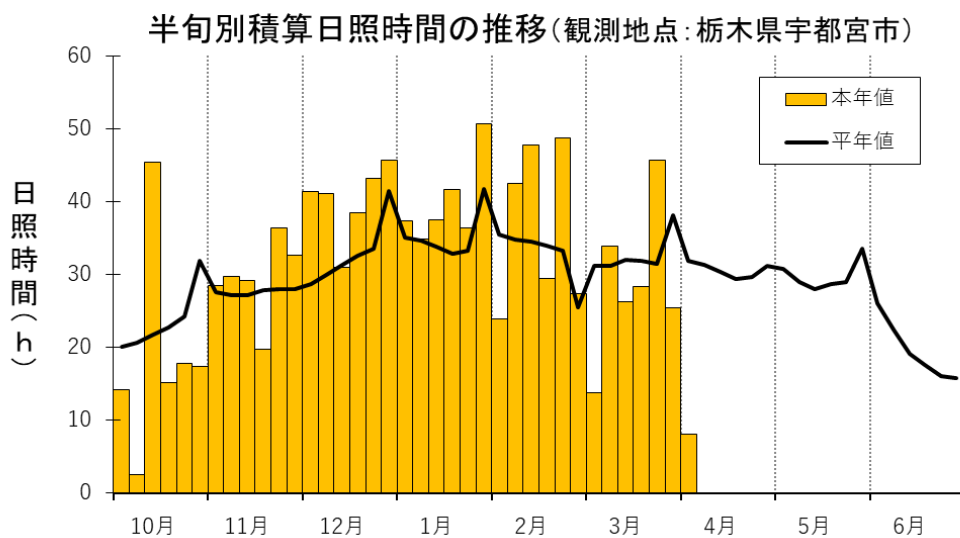
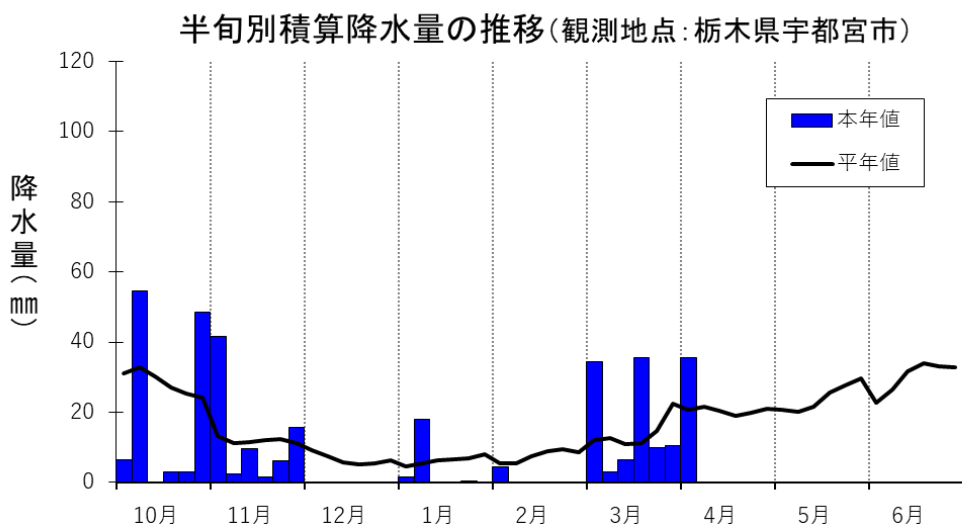
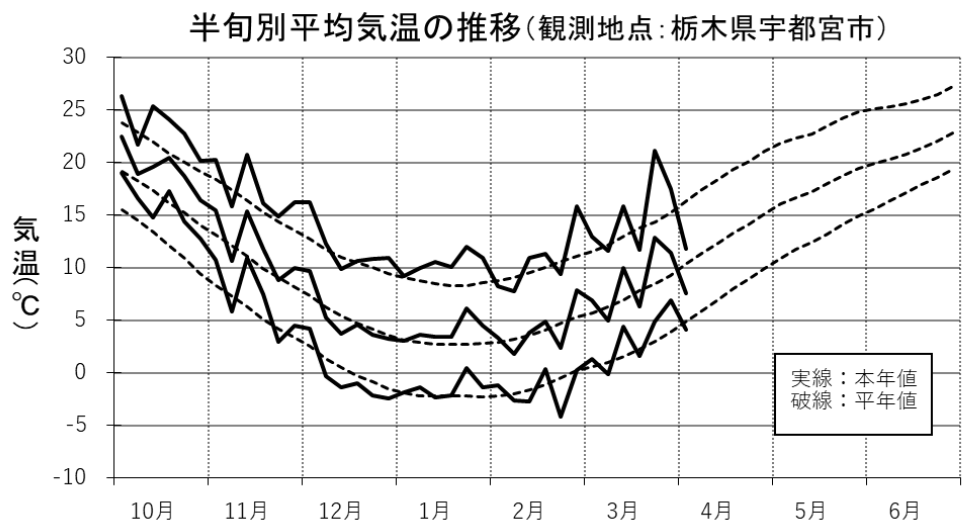




写真1 ニューサチホゴールドの生育状況
農研センター本場 2024年11月8日播種 2025年4月4日撮影



写真2 ニューサチホゴールドの生育状況
農研センター本場 2024年11月19日播種 2025年4月4日撮影



※栃木県農業総合研究センターは設立130周年を迎えました